



北京あれこれ

北京の道路はたくさんの車が走っていますが、歩道側に目をやると、自転車に混ざってよく電動自転車が走っているのに気づきます。日本の電動アシスト自転車と違って、ペダルを漕ぐことなくすいすい走っていきます。外見からはスクーターと見分けがつかないようなものもありますが、走行が許可されている都市では自転車として扱われているようです。乗る側にとっては便利な乗り物ですが、歩道側のレーンを結構な早さで静かに走り抜けていくので、歩行者にとっては注意が必要な存在です。

中国では、道路を走る車両に関する取り決めは地方によってまちまちで、電動自転車に

関しては、クリーンだからと購入を推奨している都市もあれば、危ないので走行を禁止している都市もあります。このこともあって、中国では、場所が異なると道路の様子も違って見えると言われます。上海では、北京よりも遙かに多くの電動自転車が走っていると言われます。オートバイは、北京ではそれほど目にしませんが、内陸の地方都市に行くと車よりも多く走っていたりします。

北京では、日本でもよく目にする外食チェーン店を見かけます。ハンバーガーショップ、牛丼屋、カフェなど、街のいたるところで目にします。値段は、日本より安めに設定されているところもあれば、それほど変わらないところもあります。味や品質は、日本で口にするものと比べても、さほど大きく違わないように思います。同じチェーン店でも、ローカルのチェーン店だと、店によって味やサービスにバラつきがあることもありますが、海外から入って来たものに関しては、そうしたバラつきは殆どありません。

事務所の近くにも、日本で有名な某牛丼チ





チェーン店があります。日本だと、男性一人客が多く、店内はどちらかというと殺風景な感じもしますが、こちらでは、オレンジ色などで統一された内装になっていて、家族や友だちと楽しく食事をする場所という感覚でも利用されているようです。音楽は明るい感じのものが流れています。日本にはないこちら限定のメニューもあって、食事時には空いている席を探すのが難しいほど、連日賑わっています。

つい最近、日本の持ち帰り弁当チェーン店の1号店が、事務所近くで開店しました。こちらは、中国での知名度が低いことを考慮して、低めの値段設定にしているそうです。そう言われてみると、某有名コーヒーチェーン店の場合は、ブランド力が効いているのか、他の国と変わらない値段にも関わらず、多くの人が入っています。この弁当店の味は、日本で口にするとものと殆ど同じに感じられます



が、近くで働く中国人の間でも好評のようで、既に2号店、3号店のオープンも決まっているそうです。

中国では、ここ数年ネットショッピングが盛んになってきています。北京市内での取引だと、注文した翌日には荷物を届けてもらえるそうです。こちらでは共働きの多く、昼間不在の家が多いせいか、職場を届け先に指定して商品を受け取る人も多いようです。事務所の入っているビルの前にも、朝、商品の入った段ボールを山積みにしたバイクが横付けしてあるのをよく目にします。

中国のショッピングサイトでも、第三者決済システムや、相手の信用度を評価するシステムがありますが、サイトによっては、さらに、ユーザーが随時値引き交渉できるよう、店主やスタッフとチャットできるシステムを取り入れているようです。ちなみに、こちらではチャットは、思いのほか深く浸透していて、プライベートだけでなく、仕事でもよく利用されている感じがします。業種の違いや地域差もあるようですが、社内での連絡手段として使っていたり、お客さんとのやりとりに使っている会社も多いようです。中国では、担当者とお客さんとの距離が、日本と比べて近いと感じることがよくあります。時に、友だち同士のように繋がっているように感じることもあります。こうした繋がりがひとたびできると、職場の電話は使わず、携帯やチャットを通じて気軽にやりとりがされることが多いようです。

筆者紹介

門脇 学 (かどわき まなぶ)

弁理士。LONGMA特許業務法人所属。
1998年、新樹グローバル・アイビー特許業務法人入所。
主に日本企業の国内外の出願、権利化業務を担当。2007年より中国に滞在。現在、GIP China Corporation (GIPグループ北京オフィス)において、出願業務のほか、中国国外の企業の中国出願に関する連絡業務などを担当。